

# サバンナエリア整備

令和6年(2024年)2月22日

# 1 サバンナエリア整備の概要

熊本市動植物園マスタープランに基づいた「開園100周年記念整備エリア」とした大規模な改修

マスタープランにおけるテーマ

## 「アフリカの雄大な大地」

雄大なサバンナを想起させる草食獣の混合展示や隣接する江津湖との一体的な景観づくりを目指す

### 〈マスタープラン上の展示テーマ詳細〉

- 雄大なサバンナを連想させる広い展示場でキリンやシマウマなどの動物の混合展示
- アフリカの多様な環境を学べる展示、更にサバンナの先に江津湖を望むロケーション

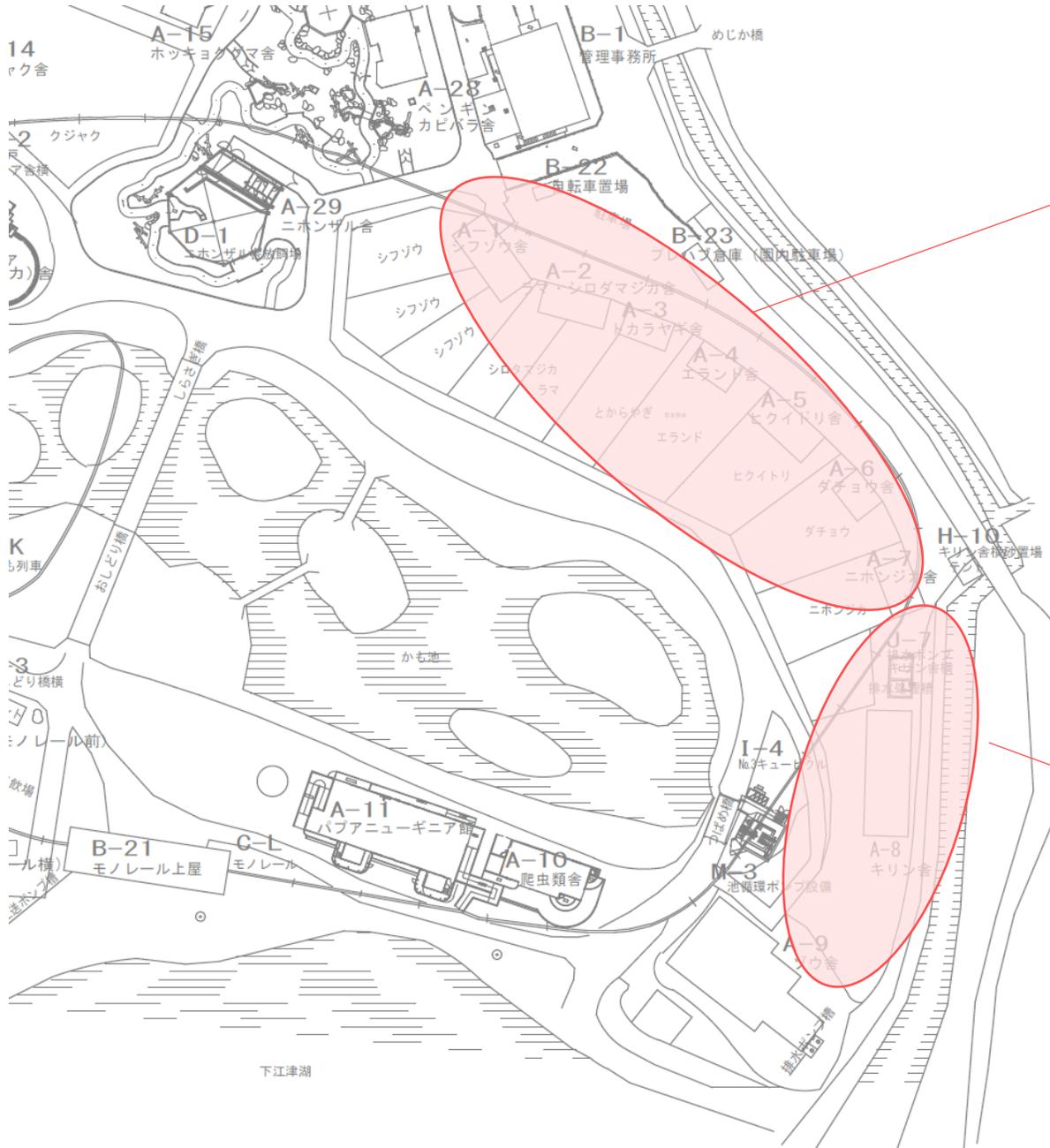
### 〈展示予定動物〉

当園飼育種： ヤマアラシ、ライオン、キリン、エランド、シマウマ、エリマキキツネザル、ワオキツネザル

新規導入検討種： マンドリル、シロオリックス



## 2 対象エリア内施設の現状



### 草食獣舎(エランド、シフゾウ等)



築55年

1969年の開園当時からたたずむ動物舎が7棟  
➤ 木造で、施設の多くが老朽化

### キリン舎



築35年

### 3 整備の方針

全体コンセプト

## 『サバンナの水辺に集う動物たち』

アフリカの雄大な大地を感じ、いきいきと生きる動物たちの命のきらめきに出会える場所へ



動物園管理事務所辺りから江津湖側を描いた鳥観図

- かも池や江津湖といった隣接する恵まれた水辺空間の最大限の活用
- 動物福祉を根差し、生き生きとした動物の姿が見られる飼育環境の整理
- アフリカの多様な環境と動物たちの共存関係などが感じられる展示ストーリーの体現

## 4 整備エリアの概要

### ① 熱帯雨林エリア ・ 乾燥疎開エリア

展示動物：マンドリル、アフリカタテガミヤマアラシ

- アフリカの熱帯雨林の暗い森の中で見つける鮮やかな色彩のマンドリルやエリアの入口ではヤマアラシがお出迎え

### ② サバンナエリアA

展示動物：ライオン

- ライオンと草食獣の各放飼場の間にモート(堀)を造成することで、観覧エリアからは手前にライオン、奥には草食動物たちを見通すことができ、サバンナで動物たちが共存しているかのような景観を演出

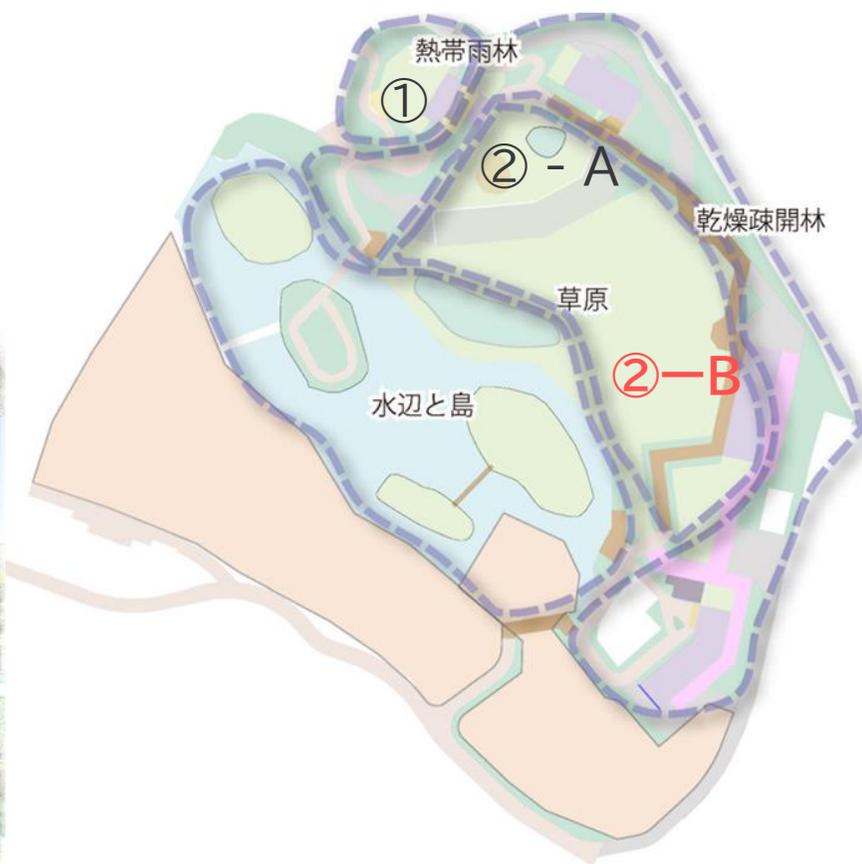


## 4 整備エリアの概要

### ② サバンナエリアB(草食獣混合展示ゾーン)

展示動物：キリン、エランド、シマウマ、シロオリックス

- 雄大なサバンナの中で、草食動物が草場や水場に集まる姿を眺めることができる
- キリン舎横の高さのある観覧デッキからは、手前に草食獣のいるサバンナの風景、奥には江津湖を見通すことができるビューポイントを設け、熊本市動植物園特有の水辺空間を活かした景観形成を実現



## 5 調査研究・動物福祉に配慮した整備内容

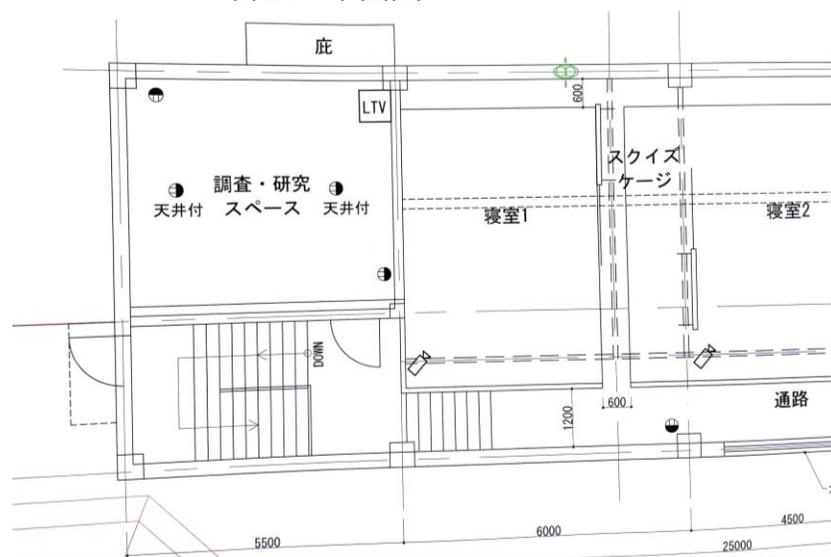
### 《 調査研究 》

- 各種動物舎(キリン、ライオン、草食獣舎)に行動観察や調査研究に活用を目的としたカメラを設置
- キリン舎には職員や大学の研究者も活用できる調査研究スペースを確保

### 《 動物福祉 》

- 草食動物は広い放飼場内における混合展示となることに伴い、視覚や嗅覚、聴覚等の様々な感覚刺激(感覚エンリッチメント)の向上に期待
- キリンの体重測定や蹄の管理が可能な健康管理用スクイズケージの設置
- キリンが採食しやすい高い位置に草架を設置
- マンドリルが高齢化しても放飼場へ出ることが出来るアプローチ

キリン舎2F 平面図より



# 6 事業スケジュール

※あくまで現段階の予定であり、変更する場合があります



既存エリア観覧を段階ごとに制限しつつ、3つのフェーズに分割して整備を行い、完成したエリアごとに動物観覧を可能とする予定

## フェーズ1

## フェーズ2

## フェーズ3

2025年度 (R7)

2026年度～2027年度 (R8～R9)

2028年度 (R10)

既存獣舎の解体

キリン舎解体

新キリン舎  
混合放飼場 整備

マンドリル、ヤマアラシ、  
ライオンエリア、観覧デッキ整備

草食獣舎 整備

観覧できる動物

エランド、キリン

キリン

マンドリル、ヤマアラシ、  
ライオン、エランド、キリン